

会報

# 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

135号  
2021年8月17日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内  
Tel 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

東京地裁宛て  
行政訴訟署名  
**5380筆**  
(21年8月17日)

## 新自由主義を終わらせる労働運動の再生へ

# 11・7比谷野音に大結集を

## 国鉄分割・民営化型大攻撃 - 関西生コン支部弾圧粉碎！ 改憲・戦争阻止！ 菅政権を倒そう！

### 勝利まで あと一歩

# もう一度10万筆署名を

すべての仲間の皆さん！ 国鉄1047名解雇撤回の闘いは、ギリギリとJR・裁判所を追い詰めています。勝利まであと一歩！ 今こそこの「一歩」を乗り越えて、解雇撤回・JR復帰をかちとりましょう。最高裁への10万筆署名をもう一度実現する決意で、東京地裁署名への取り組みを心から訴えます。

### 真実を明らかに

裁判闘争の最大の核心は、動労千葉を先頭とする私たちの闘いが明らかにした、国家的不当労働行為の真実です。JRへの

不採用基準は最高裁で「不当労働行為」と確定させて、その基準の作成を命じたのがJR設立委員会・委員長の斎藤英四郎だと突き止めたのです。国鉄1047名解雇が国家的に不当労働行為であり、その責任がJR自身にあることを誰の目にも明らかにしました。

### 動労千葉・動労総連合は満を持して労働委員会闘争を開始しました。しかし、千葉県労委

中労委は一切の審理を拒否し、労働委員会としての使命を放棄し、政府とJRを擁護する不当な命令を出しました。裁判にお

いても、「国鉄改革法に名簿作成は国鉄が行う」と書かれているから、JRに責任はない、不当労働行為に至る「具体的な事実がどうだったかは関係ない」という主張で、認否さえ拒否しています。裁判長は、「その点の認否が必要かは今後検討する」と言っています。

### 裁判所が行うべきは、審理を拒否した労働委員会への徹底した断罪であり、真実を明らかにするために審理を尽くすことです。そのためには、不当労働行為を実際に行ったJR東海名誉会長・葛西敏之、JR東日本社

長・深澤祐二の証人尋問は絶対に必要です。

### JRを法廷に

だからこそ、裁判闘争のもう一つの焦点は、JR東日本を法廷に引きずり出すことです。現在の裁判の直接の相手は国・中労委です。通常なら、中労委からJRに裁判参加の告知を行うべきところです。

しかし、中労委は告知を行わないどころか、組合側からの参加申立にも必死になって反対しています。なんと、その反対の意見書の中身を組合側に見せる



最高裁に2万4953筆を提出(2014年6月12日)

ことさえ拒否するという信じがたいことまで行いました。JRを当事者にしないために書面の内容さえ明らかにしない中労委の姿！ しかも、その内容は、「組合側の主張が認められることはないから、JRを参加させ

する必要はない」というあまりに無茶苦茶なものでした。これはJRを裁判に引きずり出すことがいかに大きな意義を持っているかを物語っています。真実に触れれば国家的に不当労働行為の責任がJRにあると認めざるを得ないから、必死になつてJRを「当事者」にさせまいとしているのです。

しかし、裁判長でさえ「中労委の主張は通常とは異なる」「悩んでいる」と言わざるを得ませんでした。明らかに敵を押し込んでいます！ 全力でJRを法廷に引きずり出しましょう。署名運動の力で裁判所に真実のすべてを明らかにさせましょう。改めて、解雇撤回・JR復帰、団交開催の東京地裁署名への協力を訴えます。(国鉄闘争全国運動呼びかけ人 山本弘行)

### 11・7集会に向け実行委員会

#### “一人ひとりが組織者になろう”

11月労働者集会に向けた第1回実行委員会が7月31日、東京都内で開催された。関西生コン支部の武谷書記次長も駆けつけ、動労千葉の田中顧問の提起(裏面に要旨)と参加者の活発な討論で11・7労働者集会がキックオフした。

24回目を迎える今年の労働者集会は、コロナ禍で新自由主義攻撃の崩壊の現実が明るみに出された中で開催される。医療崩壊、社会的格差の拡大、非正規職労働者の激増、貧困の連鎖…、「闘う労働運動の全国ネット

そして国家主義と戦争の足音が高まっている。国威発揚と利権のためだけに強行された五輪は感染者の爆発的激増を招き、多くの人が医療崩壊の中で命の危険にさらされている。時代は動き出した。こんなことはもうたくさんと怒りを行動に移そうとする人々が職場・地域で立ちあがり始めている。無数の結びつきが全国各地で生まれている。

### 労働運動再生のきっかけを

#### 呼びかけ人会議で7月集會を総括

生の新たな出発点と位置づけ、一人ひとりが組織者となつて団結を組織し運動をつくらう。組織者を組織しよう。また「棘2」上映会運動を広げ、関西支部弾圧を粉碎する闘いの中から労働運動再生の展望を語らう。オルグ団を組織し、様々な場面に訴えよう。

都内で8月10日、国鉄闘争全国運動の呼びかけ人会議が行われました。7月3日の討論集会、7月4日の全国集会の教訓など

み、国鉄1047名解雇撤回闘争に向けた裁判闘争および署名運動などを強力に進めることなどを確認しました。

呼びかけ人の葉山岳夫弁護士は、東京地裁における行政訴訟においてJR東日本の正面対決を追求すること、さらに分割・民営化過程について認否を被告である労働委員会に迫っていくなどの決意を示し、裁判闘争の勝利は、署名運動をはじめ大衆運動の帰趨にかかっていることを訴えました。

伊藤晃さんは、7月3日の討論集会での二和病院労組や日教組奈良市の報告について「面白かった。コロナ下で労働運動を

再生へどんなきっかけをつかむかが大切」として報告集を活用して勉強会を企画することなどを提案しました。

金元重さんは、「討論集会の4つの報告は勇気を与えた。小さな集団でも情勢を動かすことができる。動労千葉や関西生コン支部だけでなく様々な模索があることを示した」と述べ、さらに7・13判決で関西生コン支部解体攻撃を阻止した決定的意義を強調、「棘2」上映運動などの取り組みを訴えました。

7月集会には学生や青年など若者の姿が目立ったことなども話題になり、動労千葉の組織拡大闘争なども議論しました。

# 東京の会が『棘2』上映会

## 弾圧粉砕へ全国に上映運動を広げよう



8月14日、東京しごとセン「棘2 独白」(杉浦弘子監督、タニーでドキュメンタリー映画)平林猛プロデューサー)の上映会が、関生支援・東京の会の主催で行われ、約70人が参加しました。

# 始まった新自由主義の大崩壊

## 今こそ労働運動の再生を

新自由主義の大崩壊が始まっている。われわれの努力次第で労働運動を甦らせることができ、時代の到来した。

### 始まりは第一臨調

日本における新自由主義攻撃は国鉄分割・民営化によって本格的に開始された。現在の医療崩壊に至る攻撃の始まりは1981年、中曽根が行政庁長官の時代に設置された第二次臨時行政調査会だ。「3K(国鉄、健康保険、米)が国を滅ぼす」という掛け声の下に攻撃は進められた。中曽根はこれを「静かなる革命だ」と言った。

そうした過程を経て新自由主義は社会全体を飲み込んでいった。そこにコロナ禍が襲い、新自由主義の破綻を誰の目にも明らかにした。

何より医療崩壊だ。全国に

運動を広げていこう」とあいさつ。

映画の中では、出獄をはした武委員長(親しみのある笑顔)と、闘いの現場での闘志あふれる厳しさの「ふたつの顔」が見事に全編に貫かれています。そしてその武委員長の不屈さと、11月労働者集会の様子(折り返し)なり、労働者の闘いの勝利の展望を明々と照らし出しています。

映画を見た参加者からは「多くの市民に作品を観てもらいたいです。国家の正体がよくわかります」「筋の通らないことがあまり通る中で『筋を通す』こ

は、深夜勤があつてはじめて生活できる状態に置かれた。それを廃止すれば、郵政の6割を占める非正規労働者の生活が成り立たなくなる。

09年に始まった教員の免許更新制度は廃止されようとしている。これは教育労働者を支配する最大の武器だった。しかし、これを通して徹底して攻撃した結果、あまりの過重労働の中で教員のなり手がいなくなる事態を生み出した。廃止せざるを得なくなったが、廃止したからといって教員のなり手が集まるわけでは無い。

### 分割・民営化の崩壊

JRで起きていることも、30数年に及ぶ分割・民営化体制の全面的な崩壊だ。北海道では、赤羽国交大臣が視察に行つて、「本州とはまったく状況が違う」「JR北海道の支援はローカルルールを考えなければいけない

との重要性を感じた」などの感想が寄せられました。

また、上映後に「私たちの運動は間違っていないかった!」と杉浦監督に声をかけてきた人、初参加の人は「11月7日はぜひ参加したい」と嬉しそうに話しかけてくる人も。

上映後の杉浦監督と平林プロデューサーのトークでも、映画に込めたお二人の思いがあふれ、豊かな気持ちをもとにする事ができました。

「この映画を、全国各地で、東京の隅々で上映していきましょ!」(吉本伸幸・関生支援東京の会事務局長)

# 融合化攻撃と対決し闘いで鉄道を取り戻そう

## 急速なワンマン化

JR東日本は、3月ダイヤ改後も横浜線、相模線、宇都宮線、日光線、八高線、川越線にワンマン運転を導入することを明らかにしている。その多くが中編成(3〜6両)ワンマンとなる。2024年を当面の目標にしてすさまじい勢いで車掌削減が進められている。

内房・外房・鹿島線のワンマン2両編成での運行で、乗降の際に高齢者がドアにはさまれて転んでケガをする事態が相次いでいる状況なのに、今後は長編成列車もワンマン化するのだ。安全を犠牲にして毎年数百人規模で車掌の仕事が消える。

## 駅で何が?

一方、駅でも「駅業務の変革」と称して大変なことが始まっている。「みどりの窓口」を7割削減し、「指定席券売機」にする。だが、それだけではない。ラッシュ時間のホーム乗降合図や案内放送も終着駅での車内点検も廃止する。ホーム転落は駅事務室でモニター監視し駆けつけるというのだ。会社はそれを「駅社員がホームに居なくとも安全性が担保される仕組みの構築」(ホーム業務の働き方改革)とうたっているのだ。

さらに「車いす案内の削減」(社内資料)まで打ち出すに至っている。現状でも駅の要員体制は「車いす案内」の余裕は考慮されていない。それなのに段差などを解消して「居ない人間」まで削減するというのだ。

## 水平分業のペテン

大再編はすでに始まっている。ニューデイスや駅そば、駅弁などの生活サービス事業等を運営する子会社4社を合併し、「JR東日本クロスステーション」という大企業が作られた。

5月26日に出された「融合化」提案は、各系統における大合理化攻撃を一つに束ねて一気にエスカレートさせるものだ。現業機関の職名を全て廃止し「駅」「乗務員(運転士・車掌)」「店舗等生活サービス事業」「一部支社機能」を融合化した「新たな現業機関(営業)統括センター」をつくるという。

それは単なる「融合」ではない。何より全社員の3割を占める乗務員の大リストラを狙ったものだ。まずは車掌が、発令通知すら必要とせずに「今日は駅」を絞るよう徹底的に要員削減を現場に迫っている。

さらに、「業務領域と業務内容の拡大」「価値創造・収益拡大の取組みの主要」になれと言いつつ、「無人店舗の運営」「店舗の開店・閉店対応、商品補充」「荷物積み込み、荷下ろし」「産直での物販・観光PR」「ペーパー業務」等が拡大されていけば、運転士も同じことになる。

現時点で会社は、「店舗の売り子として立ったり、委託駅の改札に立ったりすることはない」と言いつつ、だが、グループ会社内で労働者を自由自在に使えるという既成事実をつくり、「偽装請負」等の規制をなし崩し的に解体していくことも狙っている。労働者の誇りを打ち砕き、際限のない競争に駆り立てようとしている。

## 隠されていること

最大の狙いは、JRグループ会社の大再編＝水平分業を一気に進めることにある。それは労働者の転籍を伴う大規模な外注化・総非正規職化攻撃にほかならない。結果的に闘おう。

# 最大の狙いはJRの大再編＝水平分業

JR直営駅は4分の1ほどしか残っていない。多くが「無人」「委託」だ。それなのに乾いた雑巾を絞るよう徹底的に要員削減を現場に迫っている。さらに、「業務領域と業務内容の拡大」「価値創造・収益拡大の取組みの主要」になれと言いつつ、「無人店舗の運営」「店舗の開店・閉店対応、商品補充」「荷物積み込み、荷下ろし」「産直での物販・観光PR」「ペーパー業務」等が拡大されていけば、運転士も同じことになる。

## 隠されていること

最大の狙いは、JRグループ会社の大再編＝水平分業を一気に進めることにある。それは労働者の転籍を伴う大規模な外注化・総非正規職化攻撃にほかならない。結果的に闘おう。

## 隠されていること

最大の狙いは、JRグループ会社の大再編＝水平分業を一気に進めることにある。それは労働者の転籍を伴う大規模な外注化・総非正規職化攻撃にほかならない。結果的に闘おう。